

第4回 1000年の歴史を誇る都茂鉦山と古代官衙群・式内社

【問い合わせ先】

市文化財課 ☎ 31-0623

日本の古代国家が、中国にならつて律令という法律による統治制度を導入すると、全国に70弱の国が設置され、現在の島根県西部は石見国となりました。

各国は複数の郡で構成され、現在の益田市に相当する地域は美濃郡とされましたが、当初は現在の鹿足郡（津和野町と吉賀町）も含む、かなり巨大な郡でした。それは、現在の益田市域にかなり巨大な豪族がいたことを示しています。鹿足郡は承和10（843）年に美濃郡から分割して設置されました。このとき分割された郡の境界が大境（安富町・横田町）であるといえます（郡域は後に変遷します）。

仁寿4（854）年、美濃郡で醴泉（甘い味の水）が出て、とてもめでたいこととして斉衡元年に改元されました。この醴泉が養老滝（美都町宇津川）であるといわれます。元慶5（881）年、美濃郡都茂郷丸山で銅が産出されました。これが昭和62（1987）年の閉山まで1千年以上の歴史を誇る都茂鉦山の始まりです。東仙道には、古代の官衙（役所）跡と推測される酒屋原遺跡や役人の居住集落跡と考えられる下都茂原遺跡がありますが、これらも都茂鉦山との関係が推測さ

れています。

このほか、安富町の中小路遺跡などが古代官衙跡と推測されています。

延長5（927）年に編纂された「延喜式」には、諸国の神社の名

前が記されており、そこに見える神社を「式内社」といいます。美濃郡五座として、菅野天財若子命神社、佐毘売山神社（乙子町）、染羽天石勝命神社（染羽町、染羽天石勝神社）、櫛代賀姫命神社（久城町、櫛代賀姫神社）、小野天大神之多初阿豆委居命神社（読みは一部推定）が挙げられています。菅野：に比定される神社は不明です。小野：は戸田町の小野神社とされていますが、近年は横田町の豊田神社とする説もあります。また、佐毘売山神社は都茂鉦山の技術者が信仰したと考えられています。

これらの文化財や神社から古代の益田の様子を知ることができます。



式内社の一つ、佐毘売山神社
（現在の読みは「さひめやまじんじや」）